

令和6年度 国語科 授業改善推進プラン

大田区立池雪小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

平均正答率は、全学年において全国の目標値を上回っている。このことから、昨年度の授業改善推進プランや日々の学習指導が効果的に成果を上げたと考えられる。

低学年は、漢字や助詞の使い方、句読点やかぎ（「 」）の使い方に関する指導に重点を置いた。作文や日記などの指導を通して、繰り返し練習させることで身に付いてきたが、今後も継続して取り組むことが必要である。中学年は、主語に注目させることで、段落の話題を捉えることができるようになった。また、中心文やキーワードの抜き出しができるようになった。日記や単元後の作文によって、文章構成に気をつけて文章を書くこともできるようになった。高学年は、文や段落構成を意識して読み取ることができるようになった。また、よりよい表現を吟味する活動として、グループ発表で意見を話したりアドバイスし合ったりすることができた。

(2) 課題

- ・低学年は、書くことで自分の考えを表現する時の語彙力が乏しいこと。
- ・中学年は、漢字の50問テストや漢字検定で個人差があり、日々のノートで習った漢字を使えていないこと。
- ・高学年は、文脈に合わせて漢字を適切に使用できないこと。文章力、表現力に個人差があり、自分の考えを的確に話したり、相手の意図をつかみながら聞いたりすること。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和6年度結果	令和5年度結果	令和4年度結果
第4学年	平均正答率が、目標値を上回っている。		
第5学年	平均正答率が、目標値を上回っている。	平均正答率が、目標値を上回っている。 (第4学年時)	
第6学年	平均正答率が、目標値を上回っている。	平均正答率が、目標値を上回っている。 (第5学年時)	平均正答率が、目標値を上回っている。 (第4学年時)

(2) 分析（観点別）

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
校内の正答率は、目標値と同程度であったが、主語と述語との関係の問題では、目標値を下回っていた。	校内の正答率は、目標値を上回っていた。	校内の正答率は、目標値を上回っていた。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
校内の正答率は、目標値を上回っていた。	校内の正答率は、目標値を上回っていた。	校内の正答率は、目標値を上回っていた。

3 授業改善のポイント（観点別）

（1）低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
MIM デジタル版を使用し、拗音・促音・長音・拗長音を定期的に復習する。助詞「は・へ・を」の正しい使い方、句読点、がぎ（「」）の使い方を作文や日記、日頃のノート指導を通して繰り返し指導する。	主語・述語を意識して、自分の考えを表現させる。友達に話をしたくなるような課題を設定し、順序よく話ができるようにする。国語で学んだ話型を他教科でも活用し、定着させる。	司書教諭と連携しブックトークで様々な種類の本の紹介し、声をかけ読書の幅を広げる。音読や読み聞かせの活動をしたり、言い換えられる言葉を授業で確認したりして、言葉の感度を高め、楽しんで読書ができるような環境を整える。

（2）中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基礎となる漢字の指導を丁寧に行い、小テストなどをして定着を図る。漢字の広場の単元などで、短文を書く指導を通して、主語・述語をとらせる力を養う。	毎週火曜日の朝は、朝読書をする時間を確保し、1人で静かに読書する習慣をつけさせる。本を読み、語彙力を高めることで、様々な表現ができるようにしていく。	漢字の学習に苦手意識をもっている児童が多く、漢字の読み書きには課題が見られる。苦手意識をもっている児童も楽しく学べるように語源を伝えたり I C Tを活用したりして工夫する。

（3）高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
既習漢字を活用する力に課題が見られる。タブレット使用により、漢字変換に頼る場面が増えているため、国語辞典を活用し、既習漢字や表現を自分で考えたり調べたりして活用する場面を増やす。	情報を正しく読み取ることができるよう、文や段落の構成を意識して読み取らせるようにする。また、書いた文章を読み返したり、よりよい表現を吟味したりする活動を通して、文章を書く力を高めていく。	話すこと・聞くことに苦手意識をもっている児童が一定数いる。自分の考えを人に伝えることができるように、交流の活動を取り入れる。また、交流した友達の意見から自分の考えを深められるよう、交流のやり方を工夫する。